

第6学年外国語（英語）科 学習指導案

立学校
指導者 ** **

1 「話すこと〔発表〕」の目標

ウ 身近で簡単な事柄について、伝えようとする内容を整理した上で、自分の考えや気持ちなどを、簡単な語句や基本的な表現を用いて話すことができるようにする。

2 単元名 Unit 5 Where is it from? (NEW HORIZON Elementary English Course 6)

3 単元を通した「話すこと〔発表〕」における目標及び評価規準

(1) 目標

相手に自分たちと世界とのつながりを知ってもらうために、大切な物とその生産国について、簡単な語句や基本的な表現を用いて、考えや気持ちなどを話すことができる。

(2) 評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
〈知〉国名、地域に関する語句、 This is～. It's from～. 国名 is in 地域. の表現について理解している。 〈技〉大切な物とその生産国について、国名、地域に関する語句、This is～. It's from～. 国名 is in 地域. を用いて、自分の考えや気持ちなどを話す技能を身に付けている。	相手に自分たちと世界とのつながりを知ってもらうために、大切な物とその生産国について、簡単な語句や基本的な表現を用いて、考えや気持ちなどを話している。	相手に自分たちと世界とのつながりを知ってもらうために、大切な物とその生産国について、簡単な語句や基本的な表現を用いて、考えや気持ちなどを話そうとしている。

4 単元について

(1) 教材観

本単元は、「大切な物（身の回りの物）とその生産国」をテーマとして扱う。児童は、It's from～. 国名 is in 地域. 等の表現を使ったやり取りを通して、大切な物とその生産国について考え、日本と世界のつながりに気付くことができる。ゴールの活動では、音声で十分に慣れ親しんだ語句や表現を用いた書く活動にも取り組む。Unit 7 My best memory では、小学校の思い出について4文以上の英文で書き、**中学校2年生に読んでもらう活動を予定している。この単元を通して、児童は英語には大文字・小文字を4線に正しく書くことや、語と語の間にスペースを空けることなど、日本語とは異なる表記の仕方があることに気付き、書くことに親しみをもつことができる。

(2) 児童観

本学年は、前向きに英語学習に取り組み、英語でのコミュニケーションを楽しんでいる児童が多い。実態調査（令和*年*月実施、*人）では、*%の児童が「前学年よりも英語が話せるようになった」と回答し話す力の向上を実感している。主な理由としては、「自己紹介が5年生よりも詳しく言えるようになった」「質問をしたり、反応したりできるようになった」などの声が複数の児童から挙がっている。また各単元で実施するリスニングテスト（4月～7月に3単元実施）の平均正答率が*%であることから、聞く力が身についていることが分かる。一方で、書く力の平均正答率は*%に留まっており、大文字・小文字を正確に書けていないことが要因として考えられる。

(3) 指導観

本単元では、ゴールの活動として、音声で十分に慣れ親しんだ語句や表現を用いた書く活動を行う。児童が英語でのやり取りに自信を持ち始めている実態を踏まえ、本単元で学習する語句や It's from ～、国名 is in 地域、といった表現に加え、Unit 4 Let's see the world. で学習した語句や表現も活用できることに気付かせたい。その上で、大切な物の背景にある国の特徴にも触れながら、自分の思いや考えを豊かに表現できるよう指導する。書く活動では、単元のまとめとしてクラス全体で児童が書いたものを共有し、意味のある書く活動へとつなげていく。また、書く際には英語特有の表記を意識して書けるように指導する。他者との比較を通して、児童が大切な物や生産地の違い、共通点に気付き、生活と世界のつながりを実感し、広い視野をもつことができるようにしたい。

5 単元の指導計画（8時間扱い）（●：指導に生かす評価、○：記録に残す評価場面）

時間	学習内容・活動 (■：ねらい、丸数字：言語活動、※：評価方法)	知	思	態	備考
大切な物から、自分たちと世界とのつながりを考えよう。					
1	■単元のゴールを知るとともに、大切な物を紹介するために必要な語句や表現を聞き取る。 ①Sounds and Letters ②Starting Out で生産国や、国が属する地域の言い方を理解する。				・ラーニングマウンテンで共通理解を図り、見通しをもって学習できるようにする。
2	■3 Hint Quiz を通して、身の回りの物の生産国についてのやり取りの表現に慣れる。 ①Small Talk “Where do you want to go in the world?” ②3 Hint Quiz (教師出題)	●			・3 Hint Quiz を通して、本単元の新出表現を繰り返し聞いたり使ったりして、身に付けられるようにする。
3 本時	■3 Hint Quiz を通して、身の回りの物の生産国についてのやり取りの表現に慣れる。 ①Small Talk “Where do you want to go in the world?” ②3 Hint Quiz (児童出題) 《本時の流れ》 (1)Greeting Classroom rules の確認を行う。 (2)Small Talk ”Where do you want to go in the world?”について、6年生 Unit 4 や5年生 Unit 7 で学習した内容を交えながらペアで話す。 (3)Unit goal の確認 ラーニングマウンテンを用いて、単元目標を確認し本時の目標を確認する。 (4)3 Hint Quiz ”Where is it from?” “It's from ____.”等、クイズに必要な表現を確認し、グループごとに出題する。 (5)本時の学習を振り返る。 振り返りシートを記入し、次回の学習の見通しをもつ。	●			・3 Hint Quiz で必要な表現や語句を繰り返し言ったり聞いたりすることで、新出表現に慣れさせたり、既習表現が使えることに気付かせたりする。 知：国名、地域に関する語句、This is ～、It's from ～、国名 is in 地域、の表現について理解している。 【観察】 B：多少の間違いはあるが、相手に

	※観察				伝わる英語で話している。
4	■大切な物がどこから来たのかを発表する準備、練習を行う。 ①Sounds and Letters ②大切な物の生産国を紹介するスライドを作成し、発表する練習を行う。 ※観察、振り返りシート	●	●	●	・評価規準をもとに、撮影した動画を確認したり、ペア練習をしたりしながら、自己調整を図れるようにする。
5	■大切な物がどこから来たのかを発表する練習を行う。 ①発表で使用する語句や表現の復習を行う。 ②個人練習、ペア練習、グループ練習を繰り返し行う。 ※動画、振り返りシート	●	●	●	
6	■大切な物がどこから来たのかを発表する。 ①個人で動画を撮影し、提出する。 ②グループで発表し、動画を提出する。 ※動画、振り返りシート	○	○	○	
7	■大切な物がどこから来たのかを書く。 ①下書きを行う。 ②清書し、提出する。 ※ライティングシート、振り返りシート	●	●	●	・ペーパーテスト後、共有したライティングを読み合う。
8 後日	ペーパーテスト	○	○		

6 パフォーマンステストについて

(1) テストの内容

相手に自分たちと世界とのつながりを知ってもらうために、大切な物とその生産国について、簡単な語句や基本的な表現を用いて、考えや気持ちなどを話すことができる。

(2) 採点の基準

「思考・判断・表現」については、2つの条件をともに満たしていれば「b」（おおむね満足できる）とする。

条件1：分かりやすい順番で話している。

条件2：聞き手の方を見て確認しながら発表している。

観点別の採点基準

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
a	ほぼ正確であり、相手によく伝わる英語で話している。	「b」の条件に加えて、質問を交えながら発表している。	「b」の条件に加えて、質問を交えながら発表しようとしている。
b	多少間違いはあるが、相手に伝わる英語で話している。	2つの条件を満たして相手に分かりやすく発表している。	2つの条件を満たして相手に分かりやすく発表しようとしている。
c	「b」を満たしていない。	「b」を満たしていない。	「b」を満たしていない。